りとるらいふ通信

（社福）みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2015年10月

目覚めるとちょっと喉が痛い、そんな朝を最近迎えることが多くなり、乾燥の季節が来たな～と感じます。この時期は、ご高齢の方も体調を崩すことが多いですが、りとるでも同じです。台風が多くなり気圧の変化に反応される方や、朝晩の寒暖差で体調を崩す方などが多く出ます。だからこそ支援者である私たちが倒れぬ様、マスクと栄養ドリンクの欠かせない今日この頃です。

報告！「りとるの感謝祭」が行われました！

先月号でお知らせさせていただいた「りとるの感謝祭」が、先日10月11日（日）に無事開催されました。

「日頃の感謝の気持ちを込め、楽しんでもらいたい」という目的のもと、実行委員会を中心に、約半年準備を重ねてきました。りとるらいふでは、NPO時代から様々なイベントを行ってきましたが、合併後「社会福祉法人みんなでいきる」になってからは、実は初めての大きなイベントでした。そのため、実行委員含め多くの職員が初めて経験する企画も多く、手探りではありましたが、必死に準備をした数か月でした。

当日は、朝から職員全員で気合を入れて臨んだかいがあり、たくさんの方に御来場頂くことができました。りとるらいふのご利用者様はもちろん、他事業所の方やりとるの家の前にある高齢者グループホームの皆様、地域住民の皆様や近くのコンビニの店員の方も来てくださいました。正直な気持ちを言えば、一生懸命準備をすればするほど、「どれだけの方に来ていただけるだろう・・・。」という不安が募っていたため、当日、次々と御来場者いただく皆様の姿が本当に嬉しくてたまりませんでした。

ステージでは、様々な出演団体が音楽やダンスを披露して、とても心地よい空気が流れていたのですが、そんなお昼過ぎ、突然の突風が！屋外イベントでしたので、テントが風で煽られて倒れ、一瞬会場がざわめきましたが、幸い怪我人も出ず、多くの方のご協力により屋外から室内イベントに変更して、最後まで予定通り実施することができました。室内に移動後も、こじんまりとした空間ではありましたが、アットホームな雰囲気の中で終始音楽を楽しんでいただけたようです。また、終盤にはお待ちかねの抽選会が行われ、一等のディズニーペアチケットは見事あるご利用者様の手元へと渡りましたし、今回の感謝祭のため果を存分に発揮して会場を盛り上げてくれました。まだまだ反省点も多いですが、ご来場の皆様はもとより、出演団体、出店者、ボランティアの皆様のおかげで無事今年度の感謝祭を終えることができました。

来年度も更にパワーアップして必ず実施しますので、その日をどうぞお楽しみにしていて下さい。

ご家族の皆様へ

11月「なんでもおしゃべり会」のお知らせ

いろいろな方に参加していただいておりますおしゃべり会ですが、11月は少し違った試みを実施！！！

今回は当法人事業部長片桐が出席して、皆様への情報提供の時間を設けたいと思っております。上越市のサービスのこと、地域生活拠点という構想のこと、現在のりとるらいふのことや今後考えていることなど、ざっくばらんに皆さんのお聞きになりたいことを話せたらと思います。実は、直接話したいけどなかなか話せなかったわという皆様、意外とない機会（？！）ですので、どうぞお集まりください!(^^)!　おいしいお菓子とコーヒーでお待ちしています。

日時：11月11日（水）　午前10:00～12:00
場所：りとるの家　はなれ　市民交流スペース

皆様のご参加お待ちしております

リレーエッセイ

毎月お楽しみ『リレーエッセイ』！
りとる職員が思い思いのことを書きます。
今回は、「障害福祉事業部事務長」の小林と、「放課後等デイサービス事業所にこ」指導員の浅野です。

4月から事務長として勤務しております。

「りとるらいふ」との付き合いは前職（会計事務所）の頃からかぞえ10年位となり、どの職員よりも古かったりします。

色々思い出はあるのですが、ひとつ披露します。ある日電話が鳴り、借入をしたい、それも当時の経営規模から見れば途方も無いような金額を・・・。一瞬、頭の中は？？？。直ぐ行きますと答え、話を聞いたところ、これは実現せねばと思いお手伝いさせてもらい、できたのが「りとるの家」です。

その頃も今も何が必要かを常に問い続けチャレンジしているのが「りとるらいふ」です。縁があり仲間のひとりとして関わっていくことになります。これからどんなチャレンジをするのかワクワクしております。

今、もっぱらのチャレンジは感謝祭で20年振りに弾く、りとるバンドのベースです。これからよろしくお願いします。

小林　克大

社会人になってから車での旅にハマっています。なんとなく行先を決め、長いときは600～700キロ位運転していけるところまで行き、現地でのんびりしたり、行き先に住んでいる友人と遊ぶのが休みの日の楽しみになっています。

旅をする上でマイルールがあり、なるべく「地域密着」な感じのお店で食事やお酒を楽しむようにしています。お客が交わす初めての土地の言葉と、地元な感じのする食べ物を肴にしているときに「あー今全然知らない土地にいるんだなあ・・・」なんてしみじみ思う瞬間があり、そこで旅情にひたるのがたまらなく幸せです・・・。

今年の9月には偶然休みがあった同期と鳥取県まで行き、これでもか！ってほど楽しんできました。次の目標は広島か、青森か、はたまた四国か・・・いつかは愛車で日本縦断とかできたらいいなあなんて思ってます。　　浅野　弥生

来月は、居宅介護等事業所「へるぷ屋ぴっと」ヘルパーの水澤と松野へつなぎます。
どんなエッセイが読めるかお楽しみに！！

発行者：社会福祉法人みんなでいきる　障害福祉事業部りとるらいふ
通信に関するお問い合わせ先：事業部代表 TEL025-542-0170（担当：久保）

研修報告～放課後等デイサービス＆生活介護～

今月の研修報告は、他事業所見学のご報告です。９月１０月と続けて県内の他事業所見学に行って参りました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆　放課後等デイサービスの報告　◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

９月２６日（土）に「放課後等デイサービス事業所」ららんとにこが合同職員研修として、阿賀野市社会福祉協議会様の「こどものことばとこころの相談室」へ視察に行ってきました。りとるらいふの場合、日中一時から移行したためにレスパイトの側面が強く、どうしても発達支援の観点での取組にはまだまだ力不足と感じています。そのため、今回は同じ放課後等デイサービス事業の展開をしている中でも、個別支援やグループ活動での発達支援に力を入れている事業所を見学することにしました。

当日は、発達支援の重要性等を御講義いただき、また直接支援している現場も見ることができました。マジックミラーの向こうから保護者の方が見ている中で利用者にあった活動を行う姿は、上越では未就学児に対して見ることがあるものの、放課後等デイサービス事業所ではない光景でしたので、職員それぞれに感じるところがありました。現在の自分たちの支援を振り返ることができたと同時に、発達段階にあったおもちゃを準備することや視覚支援をより強化することなど、今すぐに取り入れることができるような刺激も受けることができました。土曜にららんを閉所し、ご利用者の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、有意義な１日を過ごすことができました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆　生活介護の報告　◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

１０月１０日（土）に「生活介護事業所」きら職員研修として、社会福祉法人新潟太陽福祉会様の生活介護事業所「あんかー」と「ふれあい」へ視察に行ってきました。太陽福祉会様は歴史も深く、何より感じたことは施設内の視覚支援や構造化（作業場所でのパーテーションの利用等）がしっかりと行われている素晴らしさでした。きらの場合、まだまだワークシステムや構造化の専門性が足りないということを痛感し、職員にとってとても刺激になりました。また同時に、事業所内ミーティングの持ち方や情報共有の方法等に関する悩みが同じということも知り、課題の共有も行えました。

当日は、生活介護事業所に加えて、グループホームも見学することができたのですが、そのホームの中も備品の配置等やはり構造化がきちんと考えられており、また地域の中に溶け込むようなホームそのもののたたずまいがとても心地よく感じられました。

毎日の支援現場を継続することも大事ですが、このような他法人の取り組みを見ることで、様々な学びがあり、やはり視察は大事だとつくづく思いました。これからもこうした時間を大事にしたいと思いますので、ご利用者の皆様につきましては、どうぞご理解の程よろしくお願い致します。

視察受け入れのご報告

今年度に入り、ありがたいことに様々な関係者の方々が当事業部へ視察に来てくださっております。県内の障害福祉事業所の方はもちろんですが、県外の市町村関係者や相談支援事業者の方なども多く足を運んでくださいます。

特に視察に来て下さる方々の関心は、上越市安心生活支援事業についてと、今後全国的に取り組みが始まる地域生活拠点構想についてです。視察受け入れをすると、来て下さる皆様から逆に情報をもらったり、支援現場を見られることで職員の気が引き締まったりして、とても刺激を受けることができます。１０月も、「富山県砺波市の自立支援協議会の皆様」や、「新潟市の放課後等デイサービス事業所の方」が視察に来てくださいました。今後は、視察受け入れの報告等もこまめに行ってきたいと思います。

「にじいろ」に輝く生き方～ご存知でしたか？「LGBT」のこと～

社会福祉法人みんなでいきる
副理事長　片桐公彦

先日、研修で「株式会社トロワ・クルール」の増原裕子さんと東小雪さんをお招きしてご講演いただきました。目的は「LGBT」について職場としての対応を今後行っていくために、その理解について学ぶというものでした。

「LGBT」とは、

L ＝レズビアン（女性が恋愛の対象となる女性）
G ＝ゲイ（男性が恋愛の対象となる男性）
B ＝バイセクシュアル（女性も男性も恋愛の対象となる人）
T ＝トランスジェンダー（性別を越境して、自分が思う性別で生きる人のこと）＊一部の性同一性障害者もこの中に入る。

というもので、いわゆる「少数派＝マイノリティー」という部類の分野のひとびとのことを指します。「少数派」と書きましたが、実はこの「LGBT」に該当するひとびとは７％（１３人に１人）存在するといわれています。

今回、お招きした増原さんと東さんは、ご夫婦で、お二人ともレズビアンです。このお二人はLGBTに関するイベントで知り合い、お付き合いをはじめ、日本で初めてLGBTカップルとして東京ディズニーランドで結婚式を挙げたことでニュースなどにも度々登場し、話題を集めたので、ご存知の方も多いかもしれません。その後、お二人でLGBTに関する研修や企画、講演、執筆活動を専門に行う会社を立ちあげられています。社長の増原さんは神奈川県のご出身で慶応義塾大学でフランス文学を専攻し、一般企業に勤務していました。取締役の東さんはお隣の石川県出身で、なんと元タカラジェンヌだったという経歴の持ち主です。東さんは実父から性的虐待を受け、そのトラウマが抜けずに精神科病院への入院も経験するなどの深刻な虐待被害者のサバイバーという側面も持っており、その経験を「なかったことにしたくない　実父から性虐待を受けた私の告白」という一冊にまとめておられます。

講演の内容はとにかく素晴らしく、性的少数派の抱える多くの課題や悩み、生きづらさを鮮明に克明にお話いただきました。例えば「性」は「身体的性」「性自認」「性的指向」の３つから成り立っているが、このバランスが通常と異なったバランスによって成り立っている状態であること、「誰を好きになるか」でどの状態像に当たるかが決まってくること、職場や学校生活においてそのことを抱えながら暮らすことが「常に周囲に嘘をついている状態」かのような気分になること、カミングアウトの難しさ、配慮のない差別的な行為や発言が深刻な状況になっていることなどをお話いただきました。

我々としてはこうした講演を伺って、例えば職場の規定を配慮して変更することを検討したり、もしカミングアウトをしたいという方のための環境を作ったりということを考えたいと思っています。これは性的少数派の方々だけへの配慮ではなく、例えば家族に介護が必要な方がいるとか、心身の状況に配慮が必要であるとか、子育てをしているとか、様々な「いわゆる少数派」が社会には存在しているわけですので、そのあたりまで網羅できるような環境を作っていきたいと思いました。

お二人のお話を聞いて（多くの方がそうであるように）マイノリティーの課題に向き合ったり、その当事者である方々は、その多様性を認め、しなやかに豊かに生きておられ、人としての深みや、優しさに溢れているなと感じており、それは私のような福祉現場に身を置く者が目指す、職業人として目指す資質なのだと思いました。LGBTというテーマを通して、いわゆるダイバーシティーという枠組みで、その多様性を認め合うことの大切さを我々は身につける必要があります。

LGBTの世界の関係者にとって大切な「レインボーカラー：というがあるのだそうです。LGBTの尊厳を守り、社会に働きかけていくための象徴のカラーであるとのことです。多くの場合、赤・橙・黄・緑・青・紫で構成されており、「多様性を認めていく」というメッセージが込められています。私も増原さん東さんのように「にじいろ」に輝く生き方をしていきたいなと思った1日でした。どうか皆さんも、関心をもって本など一冊、手に取っていただけたらと思います。